

利用学生と学生サポーターの『連携』

利用学生・熟練学生サポーター・新人学生サポーターへのインタビューを通して、**利用学生と学生サポーターの連携強化のために実施したこと・その結果・今後の課題**をまとめました。

支援の質の向上を目指した連携強化

Before

- ・ 特別支援室とサポーター個人の間でのみ連絡が行われるため、**利用学生と学生サポーターの間や、サポーター同士の間のコミュニケーションが不足する**
- ・ 業務の指示がトップダウンのため、**学生サポーターからの意見や提案がしづらい**
- ・ 他のサポーターが**どんな業務をしているのかわからない**
- ・ 熟練サポーターに業務が集中し、**新人サポーターが支援に入りづらい状況**



連絡手段として
Slackを導入

ミーティングの
回数を増やす

新人への
業務割り振り



After

- ✓ 直接やり取りする時間が取れないときも、**支援の振り返りや、利用学生からの要望をサポーター全体で共有**できるようになった
- ✓ **学生サポーターが主体**となって活動を提案できるようになった
- ✓ 支援の実態を把握しやすくなり、**支援に入る機会をサポーター自身が見つけられる**ようになった
- ✓ サポーター間の情報共有が可能となり、**新人でも業務の引継ぎが容易**になった

インタビュー：それぞれの立場からみる今後の課題

利用学生

イベント等で**サポーターと直接顔を合わせる機会を増やし**、さらなる連携強化を図る

利用学生も**サポーターの募集・勧誘**にかかわる

熟練サポーター

利用学生との**支援外の交流**を深め、支援の質の向上を図る

「**一緒に並走**」の感覚で支援できるようにしたい

新人サポーター

情報の見える化を行い、全員が共有・閲覧できる環境整備を行う

最初は**誰でも不安**であることを前提に、熟練サポーターから**失敗例・トラブル例**を多く学ぶ